



本日はよくお参り下さいました

新しい年度がはじまりました。ここ数日の暖かきで桜の蕾が一様に咲き出しました。天神社前の通りも一気に春の光景です。さて、先日舟倉の内川町内会館が新たに建設されたことに伴い、竣工式が当社宮司の奉仕により行われました。毎年夏のお祭りでは、氏子区域を神輿と山車が練り歩きますが、天神社は内川天神社とも言われているように、内川町内が氏子区域であり、必ず内川町内会館に立ち寄ります。内川町内会館は久里浜と舟倉に二つありますが、今回の工事は、市の耐震基準を満たしていない舟倉会館を作り直すために行われました。この事業にあたりご尽力された方々は日頃から地域の中心となって、神社のことも支えて下さっている方々なので、式典も氏子会の集まりのようなアットホームな雰囲気の中行われました。地域社会のコミュニケーションの希薄化が危ぶまれる昨今ですが、このように、皆で何か一つのことを成し遂げ、喜び合うというのは素晴らしいことだと思います。今月も皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



4月

1日月首祭 月の初めの恒例祭祀。

15日月次祭 月の半ばの恒例祭祀。

29日 昭和の日 昭和天皇の御誕生日であるこの日は、平成元年に「みどりの日」として祝日となりました。しかし、その趣旨は昭和天皇の御事蹟を顧みるにはほど遠いものだったため、多くの国民の強い要望をうけて、昨年「昭和の日」が施行されたのです。昭和天皇は、御生前に自然をこよなく愛されました。生物学者であられただけでなく、敗戦によって荒廃した国土に緑を取り戻そうと、昭和25年から始められた全国植樹祭では、毎年各地を精力的に巡られ、おんみずから苗を御手植えになりました。その御心は今上陛下に受け継がれ、国土緑化、ひいては鎮守の森の再生、発展に繋がっています。ゴールデンウィークの最初の祝日、「昭和の日」。昭和天皇の御事蹟に思いを馳せつつ、昭和の時代を振り返る良い一日になることでしょうか。平成に生きるものの務めとして、私たちにための良き「昭和」を次代へと語り継いでゆきたいものです。引用 神社本庁ホームページ「コラム7 昭和の日」より



天神さまの豆知識

一年間続けてきた神話の「ナー」が一段落しましたので、天神さまの豆知識を再開致します。テーマは神道とし、さまざまな角度から掘り下げてみたいと思います。

◆自然の中におわす神々

近ごろ神道に対する関心が静かに広がっています。神道というと、硬直化したイデオロギー的なイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、それは明治以降から終戦までの短い期間にできたもので本来神道はかたくなに凝り固まったものではありません。古来日本人の生活風土の中で培われてきた自然を靈的な力ミの世界とする神聖な感覚がベースになっています。▼人々は里近く、山裾や浜辺に鳥居を立て、森の木や海の岩礁にしめ縄を張り、社は森深く静まるがゆえに尊く、神の依代は花木なるがゆえに清い。路傍の道祖神は苔むして草むらにおわすからこそ、いとおしいというよくな感覚が神道の原点なのです。

◆神道の特徴

次にあらためて神道とは？という問いを考えてみたいと思います。これを一言で答えるのは神職でも難しいことなので、大きな特徴を二つあげてみましょう。▼一つ目に、神道は日本の民族文化と離れて営まれたことがないこと。二つ目に、現代の常識から見ると宗教というにはあまりに漠然としていて、どこかで神道に触れているはずの日本人も特に宗教と意識することが

ないことです。▼そもそも「神道」という言葉は誰が作ったのでしょうか？神道という言葉は、日本書紀の中で初めて見られ、日本書紀を編纂した八世紀頃に仏法に對する言葉として登場しました。つまり、「仏法」というインドから伝わった宗教文化に對して、自分たちの信じてきた宗教文化をなんと呼ぼう？と考えた時に「神道」がふさわしい、となったわけですね。▼仏法の伝来によつて、初めて日本人は神道を民族宗教だと自覚したのです。以上をまとめると、神道とは、仏法伝来以前から日本民族の営んできた宗教文化そのものと言えます。

◆古代から現代、そして未来へ

神道で一番大切なことは、神や先祖をまつ「まつり」です。古代から変わらぬ神事を今も続けることで、自然を神聖な世界とする感覚を持ち続けることができ、人間が大自然の生態系に生かされているということと謙虚に実感することができます。▼そこに自然を支配するという意識はなく、あるのは命や恵みへの感謝と、社会の繁栄発展への祈りです。社会の繁栄があつて初めて個人の幸せが成立するという考え方や、古代を大切にしつつ未来を見すえていることも、神道の特徴と言えるでしょう。参考文献『神道―日本の民族宗教―』弘文堂発行

